

令和6年度 市長のまちづくりふれあいトーク（阿尾地区）

日 時 令和6年7月16日 19:00～

場 所 阿尾漁村センター

出席者 29名

市長、総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、
防災・危機管理監、消防監理監、地域振興課、地域担当職員

進 行 19:00～19:03 市長あいさつ

19:03～19:38 出席者紹介、市政の概要について（市長説明）

19:38～19:43 令和6年度阿尾地区事業概要について（地域振興課説明）

19:43～20:20 意見交換

20:20～20:25 閉会あいさつ 市長、阿尾総代

	質問の内容	回答
1	■防災センターの亀裂について 前回のふれあいトーク、そして前々回の本川市長の時にも発言したが、16年前に防災センターを建ててもらった。防災センターには海峰小学校の生徒に絵を書いてもらったが、一年で絵が消えてしまい、再度書いてもらった。しかし今では防災センターに亀裂が入っていて、再度あのような地震に遭った場合には必ず倒壊すると思う。間島の火災の時にも、倒壊で出動できなかった消防車両の話を何度も聞いている。何か対応してもらえないか。	■消防管理監 地区防災センターのクラックについて、明日確認させていただく。 【対応内容】 翌日、現状の確認を行い、その写真を都市計画課の建築士に見てもらい、その結果、現時点では早急な対応が必要ないとのことでした。しかしながら、今後も継続的に状況を確認して行く。
2	■防災センターのシャッターについて 2年前の回答は予算がないということでしたが、現在こういった地震もあって、当然市には予算がありません。ただ、もし民間の人や誰かが絵を寄付したいとか、購入したいとか、支援したいということがあれば、市としてはOKなのでしょうか？それともやっぱり、ちょっとそれはやめてくれということでしょうか？	■消防管理監 地区防災センターの絵について、2年前のふれあいトークでは、要望があれば対応するというお答えをさせていただいていると思っている。要望がございましたら、消防の方へ言っていただき、検討したい。
3	■排水路について 民宿すがたさんの後ろについてですが、排水路が傷んでいる。これについては市議員を通じて市長にもお願いしていると思いますが、現在の状況についてお話を聞きたいです。	■建設部長 県道そばの排水路について、先週市長と県土木に伺ったところ、排水路は県道の施設ではないと確認された。地元でも見積もりを取られ、大きな金額が見積もられている。市としても解決策を検討中で、結論はまだ出ていないが、今後対応を考えていく予定である。 ■市長 用排水路の管理について、市で検討している。昔は地元で管理していたが、現在は誰が管理するかが問題である。市でも検討中で、誰が管理するかを決めるために調査を進めていきたいと思う。県が管理していないことは確認済みで、市が管理するのか、他の管理者がいるのかを含めて検討している。工事には費用がかかり、議会で予算を通す必要があるため、手続きを進めていく予定である。

4	■職員の対応について 私は3年前から、毎週役所に通い続けてきました。営業経験から挨拶の重要性を学びましたが、大きな声で挨拶しても返事がないのが氷見市役所の現状です。ある時は3分以上も放置され、再訪しても対応が遅いことが頻繁にありました。地震後のお願いも、「後で返事します」と言われたまま1ヶ月半音沙汰がなく、再度尋ねると「別の部署が対応する」と言われました。穴水の役場では感謝の言葉をもらえますが、氷見市の対応は非常に不満であり、改善を強く望んでいます。	■総務部長 職員の対応については、1月の震災以来、市民に寄り添った対応をするよう総務課から職員に伝えていたが、今回そのようなことがあったということで、どの課で行われたかを確認し、研修や指導を徹底してしまいたいと思う。不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。
5	■海峰小学校のグラウンド際の記念碑 海峰小学校のグラウンド際にある氷見市長であった茶谷一男さんの名の記念碑がある。これが地震で被害を受け、崩壊の危険があり、柵をしている。学校側からも解体の要望があるが、役所や土地改良では対応できず、地元での対応が求められている。しかし、地元も財政的に厳しい状況で、解決策を模索中である。何とかならないか。	■企画政策部長 神社の鳥居が壊れて危険な状態で、多くの人が通行する場合は公費で解体の対象になる事例がある。特に、学校の近くなど子供が通行する状況では、そのような対応を考える必要がある。まずは、管理者や設置者に第一義的な責任がある。事故が起きると、設置者に責任があるため、設置者と協議する必要がある。市の補助金で対応可能か検討したいと思う。
6	■火災後の処置について 火災についての話です。世帯主が火災時に亡くなられて、その後の処置が半年が経過し、さらに3月から3ヶ月が経過しても全く進展が見られない状況です。このままだと非常に危険な状態が続いていますが、本人が動かないため、行政として何らかの対応策はないでしょうか。	■企画政策部長 私も現場を見たが、やはり強風時の瓦等は危険である。先週、地域の方からもその危険性についてお聞きした。地域の方々とどのように対処できるか話し合いを進めたいと考えている。早期に撤去できるよう取り組んでみる。
7	■耕作放棄地について 資料には載っていないが、去年から耕作放棄の田んぼが目立ってきた。特に北八代へ行く稲積橋から永芳閣の下の辺りで顕著で、周囲も草だらけになってきた。これを放置するとどうなるか不安で、私自身も草刈を行った。今後の利用について、市が主導的にどう進めるか真剣に考える必要がある。阿尾営農から来年以降の対応についてはまだ聞いていないが、噂では来年から営農はやらない可能性があるという。その場合、40丁ほどの面積が耕作放棄となり、地主が困る状況になる。市には土地の利用方法を真剣に考えてもらいたい。	■産業振興部長 阿尾地区の営農組合の来年度以降の状況については、農林畜産課から難しいと聞いている。そのことは、大きな問題であると認識しているが、阿尾地区だけでなく、中山間地でも耕作放棄が拡大している。この農地の問題については、個人のみならず地区の方々がまとまって話し合う必要がある。現在、地区で協議の場を設けており、市単独では解決が難しいため、地区の方々の意見を反映しながら調整していくことになる。現状を確認し、対策を講じる予定である。
8	■高齢者の2人暮らしについて 最近、80歳以上の2人暮らしの世帯が多く存在することを耳にした。こうした世帯が情報を得られないという問題がある。そこで、本人の要望によって防災ラジオの貸し出しなどのサービスを拡充することを検討してはどうかと考えている。	■防災・危機管理監 防災ラジオについては要支援者や高齢者世帯に配っている。また、3月から防災行政無線の流れたメッセージは、能越ケーブルテレビにてそのまま文字で見れることができるので、またそちらのほうもご覧いただきたいと思う。
9	■指定避難所について 指定避難所は津波がきても大丈夫か。	■防災・危機管理監 津波はまずは高台に逃げ、その可能性がなくなったら、指定避難所に行ってもらうのが原則となっている。

10	■太陽光発電による地域活性化について 今日のふれあいトークのため2つの新聞記事を持参した。一つは電力仲介による地域活性化、氷見エネルギー会社設立について。もう一つは氷見再エネ拠点機構が来月から太陽光発電を供給するという話だ。朝日町では風力発電を利用して地域活性化を進めている。氷見では太陽光発電による地域活性化を進めることを希望している。副市長はその事業所の社長と新聞の記事に書かれており、会社への思いやチームの取り組みを詳しくPRし、説明してほしい。	■市長 今回の太陽光発電プロジェクトは、元々灘浦インターの5ヘクタールの土地のうち4ヘクタールを利用する計画である。地元の方々から、田んぼに戻せないため太陽光発電を行えないかという提案を受け、実施することになった。国からの補助金などを受け、条件が整った結果、5ヘクタールのうち日が当たる4ヘクタールは太陽光発電を進めることができ、うまくいけば来年の春から始まる予定である。 氷見市では、太陽光発電だけでなく、温泉を利用した地熱発電や風力発電の可能性も検討したが、風が弱すぎ、地熱も不十分なため、太陽光発電に注力することになった。2050年に脱炭素社会を目指しており、さらに環境に優しいエネルギーの導入を進めていく。加納地区では、田んぼの上に4メートル程度の高さで太陽光パネルを設置する方法を取り入れることになり、太陽光パネルを設置しても耕作可能と聞いており、少しずつ進めていきたい。
----	--	--